

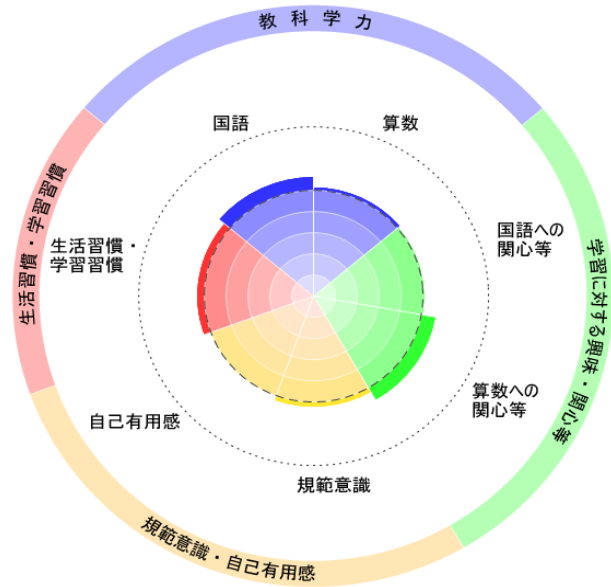
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○：成果, ●：課題)	対 策
国語	○全般的に無解答率が低く、粘り強く取り組む意欲が育ってきている。 ○全国・県の平均より記述式の問題の正答率が高く、無解答率が低いことから、文章を書くことへの抵抗は低いと考えられる。 ●漢字の音だけをとらえて、同音異義語を間違えて表記している。 ●説明文の読み取りが苦手である。資料を関連付けて読む、要旨をまとめて書くことに課題がある。	・漢字だけを練習するのではなく、文の中で使い方を考えながら漢字を書くような練習の仕方を指導する。 ・つなぎの言葉やまとめる言葉に注意し、内容を整理しながら読むことを指導する。 ・絵や図や写真、表やグラフなどと関連付けながら調べたことや自分の考えを表現する活動に繰り返し取り組ませる。(レポート・リーフレット・新聞づくりなど)
算数	○「算数が好き」「新しい問題にチャレンジすることが好き」と回答している児童が多い。興味関心を高める導入の仕方を工夫してきた成果と考える。 ○「量と測定」の記述式の問題の正答率が高かった。必要な言葉を使って、説明をする活動を多く取り入れてきた成果と考える。 ●図形領域の正答率が低く、課題がある。 ●＋、－、×、÷の混じった計算を間違えやすい。	・操作しながら試行したり考えたりする活動の時間を確保し、操作活動の充実を図る。 ・チャレンジタイム(10分間の帯学習時間)や授業の始めの時間を利用して、既習の計算に繰り返し取り組む機会を設ける。

(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○：成果, ●：課題)	対 策
	○「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできる」「課題に向けて自分で考えて取り組んだ」と答える児童が多い。対話型の授業や探究学習の成果と考える。 ○家庭学習の時間や家の人との会話についての回答から、家庭でのコミュニケーションや学習習慣などが安定していることがうかがわれる。 ●生活面・学習面の意欲が低いわけではないのに、「自分にはよいところがある」と答えている児童の割合が低い。 ●「発表の時に自分の考えがうまく伝わるように工夫した」と答えている児童の割合が低い。	・自分の考えを表現させる機会をふやし、児童のがんばりや活動の成果を具体的な言葉にして認めていくことに意識して取り組んでいく。 ・自分の考えをうまく伝えるための工夫(手立て)を具体的に指導し、どこまでできているのか、改善点は何かをはっきりさせて指導することで、できたという自信をもつことができるようにする。

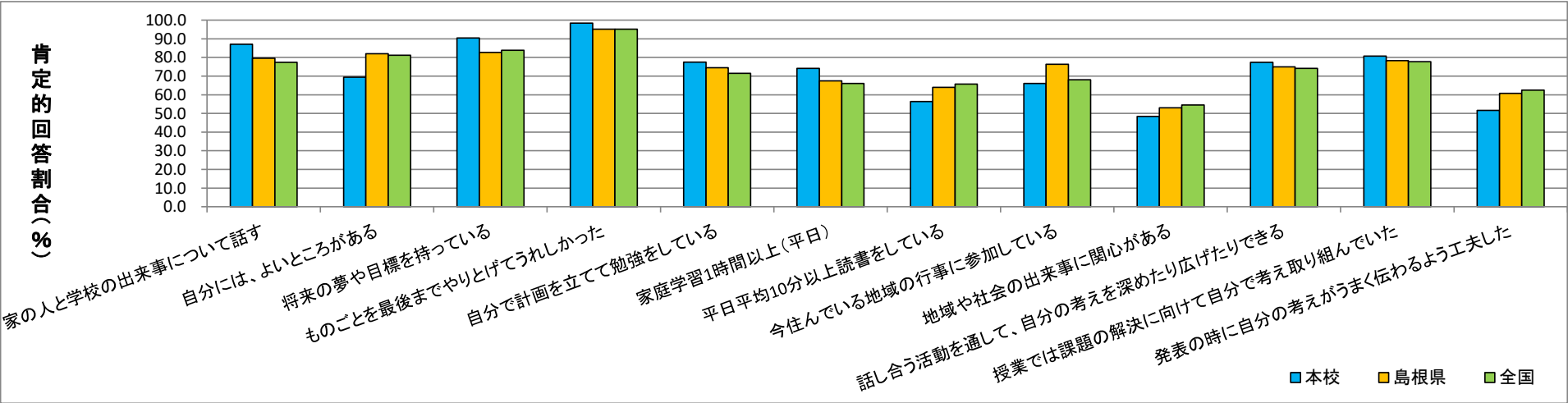
(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「読書が好き」と答える児童の割合が全国平均を下回り、読書時間も少ない。読書への意欲を高めるような図書館の取組を継続するとともに、その学年の間に読んでほしい「おすすめの本」をどのくらい読んでいるかを調査し、担任から学級全体や個別に声をかけ、読書をすすめるようにする。また、読んだり調べたりしたことをもとに自分の考えをまとめていくような活動を学年に応じて積極的に取り入れていく。 ・地域の行事には全員が参加しているので、そのことが地域にとってどんな意味があるかを機会があるごとに伝え、児童に意識づける。総合的な学習で地域を題材に学習した時に、ふるさと玉湯についての自分の考えを表現させるようにする。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	70	63	62	63.8
算数	67	66	65	66.6

受検者数 62 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。